

仏の願い

平成 27 年 西雲寺だより 夏号（42 号）

永代経のご案内

7 月 10 日(金)～11 日(土)

10 日 お逮夜(2:00～) お初夜(7:00～)

11 日 お日中(10:00～) お逮夜(2:00～) お初夜(7:00～)

法話 鯖江 佐々木和雄 師

——11 日はバスが出ますのでご利用下さい——

放送会館前発(8:50)～東別院前～工大温泉前～西安居經由
坪谷発(9:00)

常森発(9:00)～国見～鮎川～小丹生經由

万障お繰り合わせの上
お誘い合わせて
お参り下さい



浄土真宗の歴史

一向一揆と本願寺の分立

一向一揆とは

室町時代になると農民たちの間に、村の自治を求める惣村（そうそん）運動が拡がりをみせてきました。

惣とは農民の自治組織につけられたもので、村民は武士の保護を受けない、自分たちの村は自分たちで守るというもので、村民は指導者である長（おとな）を選出し、村の運営に当った。当時の真宗教団は僧侶によつて成り立っているのではなく、農民や商人などの俗人が、家庭や仕事を持ったまま坊主となつて、教団を取り仕切っていました。彼らは積極的に惣村（自治的村落）の長を教化して門徒化していききました。そして長の家が、やがて六字名号を掛け、聞法の場となつていったのです。蓮如上人は信心のことは、どこまでも談合せよ。「物申せば心中もきこえ、また人にもなおさるるなり」といわれ「物申さぬ者はおそろしき」とまでいわれ、寄り合い談合することを勧められました。上人の教化によつて各地に講が形成され、道場が造られました。そしてその道場主となつた坊主はまた惣村の長をして莊園領主や大名などの政治権力者に対抗して、村の自治を確立する役目を担っていました。ここに真宗門徒を中心とする反権力闘争が発生する芽ができたのです。これが後に一向一揆となつていくのです。一向一揆の一向とは真宗門徒を指してい

ます。今日でも真宗を一向宗と呼ぶ人がいますが、一向に弥陀をたのみ念仏申す真宗門徒を当時の人は一向宗とよんだのです。蓮如上人の教化によつて真宗教団は講を中心にして北陸一帯に大きな組織へと発展し、そして門徒が増えれば増えるほど、各地の戦国大名と本願寺教団との摩擦は度を増していき、近畿、北陸、東海地方などで、一揆が勃発することになります。織田信長との石山本願寺における十年にもわたる戦いが終結するまで、日本は百年間一揆の時代に入ることになるのです。

吉崎における一向一揆

蓮如上人が吉崎に來られて三年もすると、周囲の勢は大きく変わりました。応仁・文明の乱における東西両軍の衝突は地方にも波及し、加賀では富樫幸千代勢（とがしこうちよ・西軍）と富樫政親勢（とがしまさちか・東軍）が越前では朝倉勢（東軍）と甲斐勢（西軍）が、国内の支配権の掌握をめざして激戦を交えていました。加賀・越前の両国の国境沿いの吉崎は、戦場のただ中に存在していたことになりました。文明六年ついに一揆が勃発しました。加賀守護家の長年にわたる内紛に本願寺勢と高田派勢との対立が絡んで戦いが始まった。その結果本願寺勢が勝利し高田勢は加賀から追放され、富樫政親が守護方についた。翌七年には一揆の急進派と政親方の反一向一揆勢との間で小規模な戦いが生じた。一説には蓮如上人側近の下間安芸連崇（しもつまあきれんそう）が急進派をあおったためとも言われています。

蓮如上人は二度にわたる一揆を押さえる

ことはできず、文明二年以来四年数ヶ月にわたつて居住された吉崎を退去することを決意され文明七年、八月二十一夜、家族と侍者数名が、吉崎の山をおり、小舟で沖に停泊していた帆前船に移つて若狭にのがれ小浜につかれました。

加賀における一向一揆

弟幸千代（こうちよ）との戦いによつて本願寺門徒の勢いを見せつけられた政親（まさちか）は、以前に本願寺教団の発展と保護を約束したにもかかわらず、抑圧的な行動を示すようになりました。十一年後の長享（ちょうきょう）二年（一四八八）に再び大規模な一揆が起こり、加賀守護の政親が倒されました。そしてやがて加賀一向一揆は門徒の合議によつて統括されるいわゆる「百姓の持ちたる国」が百年の間続くことになるのです。このようなことは日本の歴史において初めてのことでした。

山科本願寺

蓮如上人は吉崎を離れて三年後の文明十年本願寺を再建するため、京都近郊の山科に移住された。上人は大谷本願寺が比叡山衆徒によつて破却されて以降、十三年の永きにわたつて、畿内・北陸の各地を転々としておられたわけです。造営は文明十一年にとりかかり四年をかけて諸堂の整備をされました。境内はあくまで大きく八丁四方で、商家がたちならび、寺内は、土居（どい）や壕（ほり）で囲まれ城郭伽藍（じょうかくがらん）の景観を呈していたのです。

しかし仏国土の如しといわれた山科本願寺も五十年後、戦国の争乱に巻き込まれ、

江州（ごうしゅう・滋賀県）の六角定頼（ろっかくさだより）と日蓮宗徒三万の軍勢に攻め込まれ本願寺勢は敗退し焼失してしまったのです。

大坂御坊（石山本願寺）の建立

蓮如上人は明応五年（一四九六）九月、八十二歳のご高齢にもかかわらず、摂津国東成郡生玉庄大坂（せつつのくに ひがしなりぐん）いくたまのしょう おおさか）に寺地を得て御坊の建立を始められます。この土地は現在の大阪城近辺で大阪という地名は蓮如上人によつて初めて名付けられたようです。ここは当時、京都・摂津・河内・和泉地方（いづれも大阪）への交通の要所でもあり、また瀬戸内海交通に至便の場所でした。そしてまたこのころ紀州や瀬戸内海の沿岸部に本願寺の教線のあらたな伸展があり、また以前に門徒化に成功した商業都市堺と連絡をとるうえにも、京都よりはよほど便利がよかつたのです。

信長との十年戦争

永禄（えいろく）十一年（一五六八）信長は東海地方を制圧して京都に入つた。京都に入ると、將軍家を復興するという名目で、近畿の寺社などに矢銭（やぜに・軍用金）を出すよう求めた。この時大坂の本願寺には五千貫、堺には二万貫を課した。本願寺はこれを受け入れたが、堺は拒否して防備を固めた。その後も矢銭の追加ばかりでなく、しばしば難題をおしつけ、ついに元亀元年（一五七〇）九月に、本願寺破却の最後通告状を送ってきた。本願寺ではこれを各地の門徒に知らせ援助を要請した。これによ

つて十年に亘る戦いが始まることになりましたが、城の守りは堅くしていか信長といえども、抜くことができませんでした。頼山陽（らいさんよう）は『日本外史』に「抜き難し、南無六字の城」とかいています。日本最強の信長軍団が、十年かかっても落城させることができなかったのです。本願寺の頭如（けんによ）上人は、城の守りをかためるだけでなく近くは湖北の浅井、越前の朝倉、伊勢の長島一揆、遠くは武田信玄に上洛を促し援助を求めましたが、惜しむらくは信玄が上洛の陣中に没してしまつたことです。これは信長にとつては最高の幸いでしたが本願寺の計画は一挙に崩れました。



一向一揆 ©Shogakukan

伊勢長島の戦い

頭如の各地門徒への救援要請にこたえて、伊勢（三重県）長島の門徒が決起した。長島門徒は「男は退くべからずとの誓いをたて、女は嘆くべからずとの誓いをたて、心は弥陀の本願にいれ、さらに命と失うことを悲しまず、征伐を恐れず」と必死に戦った。しかし信長による三度の攻撃をうけ、

籠城三ヶ月におよぶ戦いのすえ敗れた。信長は男女を兵糧攻めにして二万人を焼き殺したといわれる。信長は長島の一方向一揆を滅ぼした翌年の天正三年（一五七五）には越前の一方向一揆を撃つために府中（越前市）に進攻し、信長一流の「根切り」すなわち皆殺しの挙に出て、府中の町をすきまなく一揆勢力の死骸でうめつくし、その人数は数万に達したといわれている。

和議の成立

天正八年（一五八〇）、朝廷の仲介によつて和議が成立した。信長との石山戦争がはじまつて十一年目であつた。門主の頭如上人は本願寺を退去されたが、長男の教如は信長を信用できずなお籠城を続けたが四月後に退去した。その時、堂舎に火が放たれ、二日二晩燃え続けたと記録されている。

本願寺分立

信長没後、天下は秀吉のものになると、秀吉は本願寺に好意を寄せ、京都七条坊門堀川に、十余万歩の寺地を寄進し、本願寺は移転することになりました。その翌年頭如上人が亡くなられ、長男の教如が本願寺十三代を継承した。しかし翌年秀吉は突然教如に隠退を命じ、弟の准如が門主に就任することになりました。

それから九年後、秀吉没して天下は家康になると、家康は京都東六条に、寺地四丁四方を寄進し、東本願寺が建てられ、隠退した教如が門主に就任しました。ここに本願寺が西と東に分立したのです。（住職）

前住職 23 回忌 法要

前坊守 17 回忌

5 月 30 日(土)

法事とは、法に出会う事です

法とは、お互いが敬い合う事です

法とは、誰もが平等に目覚める事です

法とは、お釈迦さまが教えて下さった事です

法事とは、今、お釈迦さまに出会う事です

そう聞かせてもらいました



おとこの時間です
今回からお弁当形
式にしてみました



真宗布教大会

救いとは、誰もがみな幸せになることならば

悲しみや傷つけ合いを超えていくことならば

自分の判断基準で本当に救われるのだろうか？

何を判断基準にすれば救われるのだろうか？

そんな問いかけをいただきました



テーマ「他力の救い」

仏法では私たちの存在を、生死流転（しょうじゅるてん）の凡夫、罪悪生死の凡夫といいます。如来さまの眼に見出された私たちのすがたです。生死とは迷いのことで私たちは生まれて死ぬまで煩惱に惑わされ、欲をかき苦楽の世界を出ることがないのです。「生死の苦海ほとりなし」とありますように、海にたとえられるような深い迷いの世界を流転しているのです。そしてそのような迷いの存在がそのまま罪悪生死の凡夫だといわれるのです。私たちは迷いにまよい、悪をつくり罪を犯さなければ生きていけない存在だということです。『歎異抄』のなかに「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」とあります。私たち凡夫は一人一人深い業縁を抱えて生きています。業縁によつて私たちは思いがけない深い悲しみに出会ったり、人を傷つけたりするのです。私たちは念仏申しておる時も、申しておらない時も存在そのものが念仏申さねばならない身を生きているのです。

（住職）

山門揭示板

私たちは
存在そのものが
念仏申すべき
身を生きている



玄関の間
式台の間

湿気で腐った大引きを交換し新しい畳を入れていただきました



素朴な疑問

朝お参りしたら、お仏壇 開けとく？閉めとく？

よく質問いただくのですが、この作法は地域や宗派によって様々です。僕はお参りするたび開け閉めすると習っています。ネズミ対策もあるのかな？

まずは、作法よりも念仏です。念仏して仏の願いを思い出すことです。

法然上人は「念仏が称えやすいように過ごしましょう」とお話くださいます。

諦

法名に 育てられる

＜読み方＞…タイ

＜意味＞…あきらめるという意味です。ただ、諦めるにも2つ意味があるんです。よく使うのは、断念する・降参するという意味。これとは違って、諦観（ていかん）する、明らかにする、何が本当かハッキリ知るという意味が法名には込められています。お経には「諦聴・諦かに聴いて！」と説かれていますよ。



神戸・淡河
清原 純師

ご本山差し向け布教

6月14日～17日

お同行宅のお座敷で布教
がつとまるのは、全国的に
も珍しく、伝統を受け継い
でいけるのも、本当に皆さ
まのおかげです。

武周
西雲寺お御堂



安田
末定高領氏宅

本堂
八木健二氏宅



お慈悲の母

生まれきし定めとはいえ
人はなぜいがみ合い
助けつつ暮らせないのかしら
蝶と花でさえも交配
仲良く暮らすのに

生まれ持つ本能？
心身を悩ます煩悩
欲望の塊しかない私

日々 お阿弥陀さまは
お心痛めおわします
申し訳なき涙あふるる
手を合わせ お許し下さいませと

広大無辺 お慈悲の母
南無阿弥陀仏

西別所町 釈真光妙映

恩徳讃 若き門徒の コーラスと

共に歌える 八十路しあわせ

畠中町 清水 静子

・熱いお茶ひとくち胸に ホンワリと
・小石投げどこまで飛ぶか 足羽川

畠中町 宮腰キヨ子

発行

真宗仏光寺派 専念山 ^{さい うん じ}西雲寺

住職 護城一寿

筆頭総代 吉川芳弘

編集責任者 護城一哉

〒910-3523 福井市武周町5-2

電話 0776-97-2138

メール kmgojo@mx3.fctv.ne.jp

ホームページ <http://arukou.net/>

次世代の方、分家された方に！

お寺から郵送いたします。どうぞ
ご遠慮なくお申し出下さい。

みなさんの声 大募集！

原稿や作品はもちろん、ご意見、
ご感想など、どしどしお寄せ下さい。
郵送でもメールでも構いません。お
待ちしております。